

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサークル宇都宮（放課後等デイサービス）		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 17日		～ 2026年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年 12月 22日		～ 2026年 1月 23日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 23日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々に合わせた支援プログラムを専門職と連携して検討し、児童の発育状況や特性に応じた支援内容を展開している。	個別支援計画書を作成する際、児童指導員のみならず専門職の意見も積極的に取り入れ、児童の課題を多角的な視点から捉え、解決に向けた支援を行っている。	多様な職種を配置・連携することで、個別支援計画書がより一層、児童に適した内容となるよう努めていく。
2	家庭と連携しながら支援を行う機会を意識的に設けている。	保護者と職員が対面で話す機会を通じて、児童の最近の様子や変化、保護者のニーズ等を丁寧に聞き取り、事業所として保護者への支援につなげている。	担当職員によって聞き取り内容に差が生じないように、聞き取りの基本項目を設定し、家庭との連携の質の向上を図っていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害時等を想定した訓練を定期的の実施しているが、職員によって認識に差が生じている。	訓練時に実際の災害を具体的に想定しにくいことや、職員ごとの基礎知識の差があり、認識の統一が難しい状況がある。	研修内容を工夫し、実際に災害が発生した場面を想定しやすい訓練内容へと見直しを行っていく。
2	地域の幼稚園、保育園、こども園等と交流する機会が少ない。	支援プログラムの中に地域児童との交流を含む内容が少なく、交流の機会が十分に確保できていないため。	地域児童との交流を図るため、イベントの開催や地域行事への参加等について検討していく。
3	支援内容や取り組みの意図について、保護者に十分に伝わりきれていない場合がある。	日々の支援は行っているものの、情報提供の方法が口頭中心となることもあり、保護者によって理解の程度に差が生じていることがある。	面談や連絡ツール、資料等を活用し、支援の目的や児童の成長の様子をより分かりやすく伝える工夫を行っていく。